



第28号

(年に4回発行)

編集発行

弘前学院大学
広報委員会

印刷所
(有)小野印刷所

筋肉は簡単に形態や機能を变える

(第15回日本運動生理学会大会会長)

生理学会大会会長)

学長 吉岡 利忠

平成19年7月25日から27日まで第15回日本運動生理学会大会が弘前市のホテルニューキャッスルで開催されました。この学術集会は、体力医学、運動生理学、スポーツ医科学、環境医学、健康医学などを対象として行われます。大会長の講演の内容を簡単にご報告しましょう。

プロを走っています。長年、私は筋肉の機能や形態について研究していたこともあり、大会長の講演として発表しました。タイトは、「各種ストレス負荷と筋細胞の対応」ということで、細胞レベルの機能や形態の話になりました。ヒトの身体には、なんと体重の半分以上の筋肉があります。牛や豚の家畜類、鶏、魚類でもそうです。厳しい訓練によって筋肉が隆々となっている人も



「運動処方」と題して講演した吉岡先生

本多庸一とキリスト教(5)

学校法人弘前学院
理事長 阿保 邦弘



三 青年藩士本多徳藏

徳藏十六歳のとき、藩校稽古館の司監に抜擢され、藩の仕事では御手廻り書院番職(藩庁の政策本部勤務)に挙げられた。司監は一種の取締役であって、この若さでそのよう

な地位に任じられたのは、彼の抜群の人物が衆目の一致して認めるところであったからである。小崎弘道(日本組合教会牧師、明治・大正・昭和にわたるキリスト教の代表的指導者、同志社第一回生、同志社社長)は「本多の如きは唯に宗教界のみならず、いづれの社会におくとも人々の上に立つ人物であって、確かに天性の長者であるとおもふ」と述べており、そのよう彼の素質はすでにハイティーンの時代から、誰の目にも明らかに発揮されていたのである。

江戸幕府は、君臣父子の封建的秩序に理論的根拠を与える朱子学を保護奨励し、幕府の官学としてこれを育成した。徳藏も熱心にこれを学んだが、同様儒学の一派である陽明学にも関心を向けている。陽明学の特徴は朱子学の批判・修正を通じて学理上の革新を求めている。つまり、朱子学が封建的階層秩序を維持する社会規範の学であり道徳であったのに対して、陽明学は徳より学にいたるべきものとして良知つまり良心を強調し「道」の概念を教え、そこから倫理を内面化してゆく契機を含んでいた。本多は、後年山路愛山にその事情を次のように述べている。「余は朱子学に満足す

すが、その「動き」についての詳細は不明なことが多いです。人の身体は、おおよそ50兆個の細胞から成り立っているといわれます。筋肉も筋細胞からできており、その細くて長い形から筋細胞を筋線維と表現しています。一本の筋線維の直径は、おおよそ細い髪の毛のくらいです。普通、一個の細胞には、その中央に一個の核がありますが、筋線維では全く異なり一本に二から三千もの核があり、かなり特殊な細胞です。その発生の初期には筋細胞がバラバラに存在し、その後、それぞれが集合してお互いに融合し一本の細長い筋線維として完成され、収縮機能を持つこととなります。その中には、縮むための多くのタンパク質があり、その量の多い少ないによって一本の筋線維が太くもなれば細くもなるわけです。ということは、一本一本の筋線維が太くなれば全体として筋肉は分厚くなります。また、筋肉の筋線維の全体の数はその人の年齢や他の人達に関係なくほとんど同数です。すなわち、子供から大人になっても数は変わらず、また、Aさん

る能はざりき」陽明学は朱子学よりもより多くナチュラルなるを喜びたり」としており、本多がキリスト教に触れる以前に、陽明学であったことには、この意味で彼の入信過程におけるキリスト教理解に重要な影響を持つことになったと考えられる。

徳藏はさらに藩中の蘭医について蘭学を学び、また当時よりやく東奥に伝えられた英学研究にも意欲を燃やしていた。このように本多の思想形成が進められていったのであるが、その傍ら、剣術、馬術、砲術、槍術、山鹿流の兵法を学び、築城・作戦の研究や藩内を歩いての实地訓練にも励んでいたものであり、この鍛錬

とBさんとCさんを比べてもほとんど同数です。男女差もありません。さらに、筋線維にさまざまな影響を与えるそれに対応して形や働きを短時間で変えてしまうという特徴があります。さまざまな影響についていくつか述べてみましょう。地球上に住む私たちは知らない間に1Gという重力を身体に受けています。その影響がなくなると、例えば無重力の環境に長くいると筋線維は細くなってしまいがちになります。筋萎縮という現象です。宇宙における無重力の環境では、身体姿勢を維持することも重いものを持つことにも全く力を必要としませんから筋肉は次第に衰弱してしまします。いま、アメリカ、ヨーロッパ、日本が主体になり宇宙基地を地球から400キロ離れた空間に作っています。そこで長期間研究したり基地を建設したりするようになると筋萎縮が生じ、萎縮をなんとかして防御しなければ、地球に帰還することもできなくなります。また、寝たきり状態でも短時間のうちに筋萎縮が生じま

が、後年の偉丈夫の基礎づくりになったのであろう。

四 明治維新

一八六七年、徳川一五代將軍慶喜は政権を奉還し江戸幕府の支配は終わりを告げた。一八五三年、ペリーの来航に始まる先進資本主義諸外国の強圧、国内では幕藩体制の動揺と尊王攘夷論の高揚、百姓一揆・打ちこわしの激化、そして薩長連合の攻勢等内憂外患、満身創痍のなかで、徳川封建体制は瓦解したのであった。

幕末の動乱は、旧幕府支持派(佐幕)と朝廷(勤皇)と薩長連合勢力が後継の対立が軸にあり、戊辰戦争となった。全国の各藩は旧幕府支持の佐

幕か朝廷支持か選択をせまられることになった。津軽藩は、当初佐幕の奥羽越列藩同盟に組し、約定のため庄内藩に本多徳藏十九歳、菊池喜代太郎二十歳、石郷岡一得二十歳の青年武士が派遣された。三人は無事任務を果たし帰藩した。しかし、藩は彼らの出張中に一変し、朝廷側にたち逆にして内藩を討討する方針に転換していたのである。青年武士三人の胸中はいかばかりか察するに余りあるところである。

この転換は津軽藩御用人の職にあった西館平馬(弧清)は京都在勤中であつたが津軽藩の動きを聞き、津軽の宗家近衛家と相談するとともに岩倉具視とも接触近衛家からの教

す。これらの状態は筋肉を使わないことあるいは筋肉を使えないことが原因となるため廃用性萎縮とも表現されます。難病である筋萎縮症もほぼ同様な状態を示します。このような状態はなんとかして防がなければなりませんし治療も必要となります。講演ではこの萎縮のメカニズムと萎縮を効果的に防ぐ方法などについて、筋細胞の中にあるさまざまな物質、情報伝達系、タンパク質量などの変動から説明しました。

このように、筋肉は可塑性が高いからだの器官であることが分かります。運動生理学の観点からは、たとえば力強いトレーニングを筋肉に与えようと、筋線維は太くなって大きな筋力を発揮できるようになるし、中ぐらいの力で長い時間トレーニングを繰り返すと筋線維の太さは変化しないけれど疲れにくい筋肉になってしまします。これらの結果は、実際の競技スポーツの分野に活用できますし、人々の健康維持・推進のためにも病気になるない身体づくりにも貢献しています。会長講演の一部分を述べてみました。

「この旗のもとに、私たちがすべて

の教職員と学生たちがこころを一つにして、これからも研究教育活動を頑張りたい」と挨拶し、出席

者が見守る中、校旗が披露され掲揚されました。続いて東代表取締役並びに工藤幸枝校友会会長に吉岡学長より感謝状が贈られ、大きな拍手とともに掲揚台の完成を祝いました。

校旗掲揚台(高さ八メートル、三本)は本学一号館入口手前に設置され、校旗は毎日掲揚されています。

(総務課)

七月十二日(木)本学において、校旗掲揚台完成式が催されました。校旗掲揚台の設置は、すでに学生並びに教職員が身に付けている大学エンブレムのバッジと同様に、学生と教職員が弘前学院大学で学ぶこと、働くことへの誇りを共有して欲しいという願いが込められており、この度、東北化学薬品株式会社代表取締役東康夫氏並びに弘前学院校友会からのご寄付により、設置されるはこびとなりました。

完成式当日は天候にも恵まれ、東代表取締役、校友会の方々に掲揚台建設にご協力いただいた吉川建設株式会社長吉川功一氏をお招きし、学生及び教職員等関係者を含め約三十名の出席のもとに盛大に行われました。中澤貴郎宗教主任の祈祷の後、吉岡利忠学長がお礼の言葉とともに

「この旗のもとに、私たちがすべて

の教職員と

学生たちが

こころを一

つにして、

これからも

研究教育活

動を頑張り

たい」と挨拶

し、出席

地域総合文化研究所活動報告

所長(教授) 笹森 建英

『地域学 五巻』は十二篇の論考とフォーラムの書き起こし文を含む三百二十四頁。例年より豊富な内容でありながら、販売価格は同じである。

今年が特に売り上げを順調にのびているのは、陸羯南の記念事業が開催される年に当たり、羯南の特集が組まれているためである。

もちろん、他の論考も魅力的である。他社による類似の刊行物よりも、「学術的であり、後世に残るのほこらだらう」という評価を得ている。

学外へ上質な「学」の発信を継続できるのは幸せである。看護教育に関する戦後の歴史を演題として講演会をライ

日本口承文芸学会開催さる

大学院教授 島山 篤

6月2・3日、本学で日本口承文芸学会が開催され、全国と地域から多数参集した。2日の公開講演では、「津軽の口説き節の構造」(本学大学院教授・笹森建英)、「岩木山一代記について」(大東文化大学教授・成田守)が主眼だった。講演者はともに津軽の出身者で、地域の文化に対する造詣と愛着の深さが滲み出ている。とくに民謡歌手の佐藤信夫氏が歌った津軽の口説き節とその分析は、参会者に深い感動を与えていた。

3日の午前は3会場にわかれ、日本の北はアイヌの英雄叙事詩から南は沖縄石垣島の来訪神の唱え言まで(津軽からは新田寿弘「江差の繁次郎話」)、世界的にはモンゴル族や満州族の伝承について、活発に発表された。

午後には「鬼と山人」津軽史を演題として講演会をライ

史を演題として講演会をライ

ライオン島崎玲子氏(青森中央短期大学看護学科教授)を迎えて、七月二十一日(土)に行つた。看護婦の地位の向上、学問としての成立、進駐軍(駐留軍)による改革など、豊富な資料による講演であった。毎回、地方紙が取り上げ報道してくれる。その新聞であるが、もう少しサバを読んでも、席者数を報道すればよいものを、と不純な考えをもった。

二十名の参加者が熱心に聞いていたと報道。事実だから仕方がない。藤岡主事と新聞社、市役所、病院等に宣伝に歩いても、この程度の結果で



あった。もつと学内からの参加者を増やしたいものだ。次は「方言」と「ゴゼ」(十一月十日)の講演会を予定している。

昨年、学院出身教職員の会主催した「平家琵琶」を再び十月二十日(土)に開催予定である。「祇園精舎の鐘の聲」のひとくさりを吟じられるようになりたい人はこの機会を逃さぬように。ワークショップ、講演会、演奏会を企画している。

た。とくに学生たちは津軽の口頭伝承の豊かさを実感し、全国的あるいは世界的な規模の発表に刺激を受けた、と話

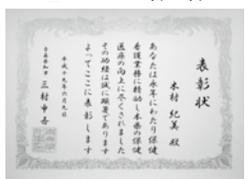
「地域学」は二千円の販売価格である。しかし、学内関係者にかぎり、千五百円で頒布している。バックナンバーも含めて、購入希望者は藤岡主事まで。

看護学部 木村紀美先生 県看護功労者知事賞受賞する



木村紀美教授が、長年、医療・福祉分野で尽力した人の功績をたたえる青森県看護功労者として、知事の表彰をうけた。

6月9日に青森市文化会館で表彰式が行われ、先生を含めて20名が看護の心を胸に一層、患者の心と体のケアに努めていくことを誓った。



国語国文学会夏季大会

弘前学院大学国語国文学会

では、去る7月21日、第37回「夏季大会」を挙りました。この大会は、夏季/冬季の2回行われるのが慣例となっており、教員・学生・卒業生らによる多彩な発表と熱心な質疑応答により、過去にも多くの学術的な成果を挙げて来たものです。

今回は、この4月に大学院に着任した野沢勝夫教授による公開講演が行われたほか、「短期留学を語る」と題して、留学先から帰国して間もない学生2名による短期留学の報告と質疑応答が行われました。多年の研究と深い学識に裏打ちされた講演は言わ

ずもがな、新企画の「短期留学報告」についても、多くの収穫があったと自負しています。発表題目は以下の通りです。

短期留学を語る
 日本語教員を
 目指す上での留学
 日本語・日本文学科3年
 菊池 祥光

異文化理解
 英語・英米文学科3年
 高橋 絢佳

公開講演
 「日本語資料」としての
 弘前学院大学大学院教授
 野沢 勝夫
 (文責：井上)

父母と教職員の会総会

父母と教職員の会定例総会が五月十九日(土)、本学において開催され、次の議案が審議の後、決定されました。

- 第一号議案 二〇〇六(平成十八)年度活動報告及び二〇〇六(平成十八)年度収支決算報告について
- 第二号議案 二〇〇七(平成十九)年度活動計画(案)及び二〇〇七(平成十九)年度収支予算(案)について

また、役員については、次のとおり決定されておりまして、会長 伴 恵美子



2007年度活動計画について

公開講座委員会 文学部准教授 鎌田 学

今年度の活動としては、例年通り「公開講座」講師派遣事業と大学での「開放講義」を行っています。

「公開講座」(講師派遣事業)は、学校のイベントや職場の研究会などに本学の教員を講師として派遣するものです。多く活用いただければ幸いです。ご希望をEメール(koukai@hirogak-u.ac.jp) FAX、ハガキなどでお知らせ下さい。

また、「開放講義」は地域の皆さんに弘前学院大学における通常の講義にご参加いただくものです。後期の開放講義は左記のように募集いたします。是非ご参加下さい。

【受講期間】
 9月25日～2月12日
 【予定科目】
 医療・看護倫理、異文化理解

副会長 伏守 達幸
 副会長 佐藤 和博
 監事 吉川 秀樹
 監事 佐々木正晴

2006(平成18)年度弘前学院大学父母と教職員の会収支決算書

収入の部				支出の部			
項目	前年度予算額	前年度決算額	今年度予算額	項目	前年度予算額	前年度決算額	今年度予算額
前年度繰越金	1,512,220	1,512,220	830,739	運 営 費	360,000	279,600	360,000
入 会 費	639,000	654,000	648,000	1 事務 費	30,000	29,456	30,000
会 費	5,990,400	6,031,200	6,120,000	2 通 信 費	200,000	152,399	200,000
雑 収 入	20	1,404	100	3 旅 費 交 通 費	30,000	7,520	30,000
合 計	8,141,640	8,198,824	7,598,839	4 会 議 費	20,000	10,225	20,000

2007(平成19)年度弘前学院大学父母と教職員の会収支決算書

収入の部				支出の部			
項目	前年度予算額	前年度決算額	今年度予算額	項目	前年度予算額	前年度決算額	今年度予算額
前年度繰越金	1,512,220	1,512,220	830,739	5 慶 弔 費	80,000	80,000	80,000
入 会 費	639,000	654,000	648,000	6 広 報 費	300,000	299,580	300,000
会 費	5,990,400	6,031,200	6,120,000	7 父 母 懇 談 会 費	450,000	445,079	450,000
雑 収 入	20	1,404	100	8 新 旧 役 員 懇 談 会 費	0	0	0
合 計	8,141,640	8,198,824	7,598,839	9 活 動 協 力 費	6,150,000	5,806,899	6,150,000

収入の部				支出の部			
項目	前年度予算額	前年度決算額	今年度予算額	項目	前年度予算額	前年度決算額	今年度予算額
前年度繰越金	1,512,220	1,512,220	830,739	10 教 員 研 修 費 補 助 費	300,000	0	300,000
入 会 費	639,000	654,000	648,000	11 職 員 研 修 費 補 助 費	400,000	400,000	400,000
会 費	5,990,400	6,031,200	6,120,000	12 寄 費 補 助 費	200,000	200,000	200,000
雑 収 入	20	1,404	100	13 宗 教 部 補 助 費	550,000	548,908	550,000
合 計	8,141,640	8,198,824	7,598,839	14 学 生 課 補 助 費	100,000	100,000	100,000

収入の部				支出の部			
項目	前年度予算額	前年度決算額	今年度予算額	項目	前年度予算額	前年度決算額	今年度予算額
前年度繰越金	1,512,220	1,512,220	830,739	15 学 友 会 補 助 費	400,000	400,000	400,000
入 会 費	639,000	654,000	648,000	16 就 職 開 拓 補 助 費	1,400,000	1,399,591	1,400,000
会 費	5,990,400	6,031,200	6,120,000	17 図 書 補 助 費	1,200,000	1,200,000	1,200,000
雑 収 入	20	1,404	100	18 学 生 募 集 活 動 補 助 費	600,000	599,991	600,000
合 計	8,141,640	8,198,824	7,598,839	19 研 究 所 補 助 費	400,000	398,746	400,000

(収入合計金額) 8,198,824 (支出合計金額) 7,368,085 (残額) 830,739 (前年度繰越金)
 上記監査の結果収支異常ないことを認めます。
 平成18年5月8日

(収入合計金額) 8,198,824 (支出合計金額) 7,368,085 (残額) 830,739 (前年度繰越金)
 上記監査の結果収支異常ないことを認めます。
 平成18年5月8日

監事 吉川 秀樹
 監事 佐々木正晴

監事 吉川 秀樹
 監事 佐々木正晴

